

剣総務第336号

平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

剣淵町長 佐々木 智 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、地域振興・地域行政等にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号により依頼のありました標記について、
別紙のとおり提出いたしますので、よろしくお取り計い願います。

(総務課企画財務グループ)

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道剣淵町

限られた国と地方の財源の中で、全ての道路の整備（新設、改修、維持や管理等）を行うことは難しい状況です。

しかし、北海道のように広域な圏域を有する地域では、高規格道路など主要な幹線道路の整備を必要としております。

特に圏域中心城市から離れた地域の医師不足、診療体制等による医療問題、道路整備に携わる土木業、高規格道路等を利用した観光業や流通業への経済的な影響など、多様な課題があります。

財政面から、あらゆる地域で希望する整備は困難な状況の中で、各地域の課題を整理する、必要とする整備の優先順位を付けるなど、これからのように道路整備を進めていくべきか、より国民に分かり易い、明確な基準を定めることが必要と思います。

基準を定めるとしても、なかなか簡単な議論で済むものではないことは承知しています。

その中でも国民に向けた情報の公開（議論の経過、事業内容など）、情報の透明性を積極的に進めながら、国民の道路行政への理解を促すことが大切であると思います。

賛否はあると思いますが、大方の国民の納得が得られる方法、努力姿勢など具体的に示され、今後の道路行政を進められるよう願っています。

② - 1 地域の現状と抱える課題

北海道剣淵町

○現 状	○課 題
高齢者が増える中で、農村地域に住む高齢者の車利用の依存度が高く、病院への通院、買い物など、車で出かける機会が増えています。 市街地域に住む高齢者は、歩行のほか、自転車や車を利用する機会が多く、近年は冬期間でも夏期間のように自転車を足代わりに利用している高齢者が増えています。 年間を通して、高齢者の自転車や車を利用する機会が増え、交通事故に会う危険性が高くなっています。	高齢者の自転車や車を利用する機会が増え、交通事故に会う危険性が高くなりつつある中で、自転車や車の利用の仕方など、より一層の交通安全への啓発、交通安全指導が必要です。 整備（ハード）面では、歩行者、自転車利用者と車との歩行・走行区域の分離、段差のない車歩道、交通標識の見易さなど、高齢者や障がい者、小さな子どもへ配慮した安心・安全な道路整備、合わせて北海道の気候、地形など地域の特殊性に配慮した道路整備が必要

人口流出が続く中で、高齢者の世帯が増えています。

高齢者が自ら車を運転できる間は良いものの、車の運転ができなくなった時、今後はより公共交通に依存する高齢者の増加が予想されます。

既存の路線バスのあり方、新たな公共交通手段の検討、合わせて本町の市街地域と農村地域の事情は異なり、各地域の状況を把握しつつ、各地域を連絡する主要な道路を優先に整備するなど、将来を見据えた効率的な整備（計画）が必要です。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道剣淵町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
総合的な交通安全対策	○代表事例 町道東剣淵線改良舗装工事 (交付金事業)	○期待する効果や評価等 本道路は、一般国道４０号と道道温根別ビバカルウシ線を斜めに連絡し、旭川市・和寒町方面から来訪する人々が市街地へ入る玄関口としての役割を果たしています。 平成１８年度から都市再生整備計画（剣淵市街地地区）を策定し、市街地域から本道路、道の駅周辺を計画区域と定めて事業を実施しています。 計画区域内の「道の駅」から、市街地域の「絵本の館・まちの駅」などへ人の流れがより作られ、重要な道路となしています。 利用の増加が進む本道路は、道路幅が狭く、歩道がない中で、道路利用者（地域住民等）の交通安全対策が求められ、道路整備による利用者の安全確保を進めています。 事業期間は、平成２０年度～平成２１年度の２ヵ年間。	